

玉置功労賞 若倉正英 殿

(若倉正英氏) 2018 年度 玉置賞推薦状

若倉正英氏は 1974 年、東京工業大学大学院化学工学専攻修士課程を修了し、神奈川県工業試験所に入所されました。神奈川県工業試験所では防災技術部に所属し、化学物質の熱危険性評価や反応暴走に関する研究、廃棄物処理やリサイクル工程のリスク解析等に従事されてきました。2007 年に神奈川県産業技術総合研究所を退職、同年独立行政法人（現国立研究開発法人）産業技術総合研究所研究顧問、2017 年から同客員研究員として産業安全に関する研究、若手研究員の育成などの活動、あわせて早稲田大学理工学総合研究センター招聘研究員として災害情報の解析等も実施されています。

安全工学会における活動としては、1990 年から編集委員、普及委員、企画委員などを務め、2006 年から 2010 年まで普及委員長、企画委員長、2010 年から 2012 年は副会長、また、2013 年の保安力向上センターの発足に伴い同センター長を務められています。また、化学安全に関する研究や事故事例解析などの成果を安全工学誌に投稿されるとともに、安全工学セミナーでの講師など安全工学会を通して産業や社会の安全に寄与されてきました。安全工学会による受託事業では、経済産業省調査事業として高度技術者教育に関する検討（2002 年、2013 年）、保安力、現場保安力の仕組みの策定（2006 年～2015 年）、製油所の事故の要因分析調査（2012 年）、日本化学工業協会によるリスク評価システム（リスクマネージャ）策定（2004 年～2012 年）、石油産業活性化センター（現 石油エネルギー技術センター）の安全情報共有システムの策定（pec-safer 2006 年～2015 年）などに参加されました。また、安全工学会が企業等の委託を受けて実施した。事故原因分析調査にも参加されています。

教育活動としては 2000 年から 2010 年まで法政大学工学部、同大学院、2008 年からは岡山大学大学院で非常勤講師として化学安全等の講義を行い、一般財団法人日本環境衛生センターで 30 年にわたり廃棄物処理技術者の安全教育を担当しておられます。

その他の安全に関する行政等での活動として、産業や環境の安全に関する経済産業省、環境省、消防庁などの委員、また経済産業省の委託により 1988 年から 2013 年まで OECD 化学安全ワーキンググループ（WGCA）に日本委員として参加されました。

長期間にわたる安全工学会での活動に加えて、産業や環境の安全に対する様々な貢献は玉置功労賞にふさわしいものであるといえます。

若倉正英氏経歴

1974 年 東京工業大学理工学研究科専攻修士課程修了

同年 神奈川県工業試験所（現 神奈川県産業技術総合研究所）入所 防災技術部

2007 年 同所退職

同年 独立行政法人産業技術総合研究所安全科学研究部門研究顧問

早稲田大学理工学総合研究センター 招聘研究員

2017 年 国立研究開発法人産業技術総合研究所安全科学研究部門客員研究員